

未来社会創造事業 探索加速型
「個人に最適化された社会の実現」領域
年次報告書(探索研究期間)

令和3年度採択研究開発代表者

[研究開発代表者名：中澤 徹]

[国立大学法人東北大学大学院医学系研究科・教授]

[研究開発課題名：マルチモーダル AI を用いた視覚指標による幸福度評価]

実施期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

§1. 研究開発実施体制

(1)「中澤」グループ(東北大学)

① 研究開発代表者: 中澤 徹 (国立大学法人東北大学大学院医学系研究科・教授)

② 研究項目

文化的背景横断的なウェルビーイング指標の作成とセンシングデバイスのデータ統合

・文化的背景横断的なウェルビーイング指標の作成

・マルチモーダル AI 開発

・幸福度を反映する血中バイオマーカー探索

§2. 研究開発成果の概要

令和 4 年度は、視覚障害者を対象としたウェルビーイングに関するインタビュー調査を実施した。昨年度までに明らかにした一般的な主観的ウェルビーイング概念と比較して、視覚障害後にケアによって生活の質を再確保した者が語る概念とに違いがみられるのかを探ることが目的であった。10 名のロービジョンケア経験者のインタビュー結果を分析途上であるが、現段階でウェルビーイングに関する 11 のサブカテゴリが抽出された。そのうち 10 カテゴリは一般と同じ概念枠組みに当てはまった。どれにもあてはまらないカテゴリとして「当たり前の生活」という概念が抽出された。また、視覚障害者のウェルビーイングがロービジョンケアに改善する様子を数値化するにあたり、必要な情報を主観的アンケート、ならびにセンシングデバイスや血液分析から客観的に分析すべく、ロービジョンケア対象者からのデータ測定を開始した。同時に、視覚障害やウェルビーイングに関連する血液中因子を探索する目的で、眼疾患を有する患者検体の RNA 修飾、未就職核酸ならびにアミノ酸の測定を実施した。

【代表的な原著論文情報】

該当なし。